

## 協奏曲

消え入るように呟いた御前のひと言を  
この混沌とした胸に受けとめ  
生命の限り陽光を浴びようとする草々の中へ  
身を投げ出した御前にくちづけ

夏雲の切れ間からのぞく  
刷毛のような秋の雲と高い空  
何処へ急ぐのか  
絶え間なく流れるあの雲は

やかましい不協和音の止むことのない  
喜びも哀しみも虚構だらけの都会から  
逃げ出してこの広さを占領し  
思う存分に僕らだけの協奏曲を奏でよう

涼しい秋風は草々をなびかせ  
乾いたざわめきを造り出し  
何処へ急ぐのか  
僕を追い抜いてゆくあの風は

(1985.8.)